

### 胸を張って



東町中  
梅原 杏奈

「夢と希望と目標」  
私が高校入学時に心に期した言葉です。あれから三年が経ち、当時抱いていた夢の大半を叶え、卒業の日を迎えます。

高校生活のほとんどの時間を弓道部での活動に注ぎ、「素晴らしい仲間と大会実績と思い出を作った」と、胸を張って言えます。しかしその道のりは長く、遠回りの連続でした。敗北を繰り返して、メンバーと本気でけんかもして、最後につかんだ沖繩インターハイ出場。目標の全国制覇は達成できませんでしたが、本当により経験ができました。今、私には将来の夢があります。四月から地元大学に進学しますが、あえて夢に直結する道

は選びませんでした。「可能性を狭めてはいけません。」と再三言われ、その通りだと思っただけです。だから私は、将来の夢を叶えるために少し遠回りをする。そうして時間をかけた分、得るものが多いことを高校三年間で知ったからです。

しかし、進学に当たって「ついていけないか」「苦しくて挫折しないか」など、不安なことは多くあります。でも辛い時、苦しい時、「自分には夢がある」ことを思い出します。そして何より、家族、仲間、先生がいるから頑張れるという感謝の気持ちも忘れないようにしたいです。新天地に挑み、四年後また成長し変化した私となって、胸を張っていたいと思います。



### 卒業にあたって



矢木町  
井上 二郎

春の訪れには早い三月上旬、我々多くの高校三年生は母校を卒業します。「卒業」と言ってもそこに込める思いは千差万別ですが、自分にとって卒業とは別れなのだと思います。友人、恩師、学舎など、挙げれば数えきれません。卒業とは、それら全てと別れることなのだと思います。

自分の中では、特に友人との別れが何より悲しいです。多くの親友がこの地を離れ、新天地へと旅だつていきます。今の時代、電話やメールなどで手軽に連絡をとれますが、それでも親友と話すことができなくなるのは寂しいです。正直に言うと、もう一年、今の仲間と高校生活



を楽しんでいたかと思うくらいです。

しかし、卒業とは別れだけではなくあります。各々の道へと進む始まりでもあるのです。進学、就職、自分探しなど、その道は多岐にわたります。そして我々卒業生はこの春、新たな道への旅立ちを迎えるのです。それはとても希望に溢れる未来なのだと思います。

だから自分も、友との別れを悲しんで立ち止まったままになつてはいけないと思います。どんなに多くの道筋があつたとしても、その先へ進まなければ何も得ることはできません。その先は不安定で苛酷なものかもしれない。しかし、その過程を乗り越えた先に、自分の望んでいる未来を得ることができると信じます。

この卒業は、その第一歩となるのでしよう。

### 日々の生活の中で

#### 許し合うこと



桜 町  
児玉 直通

上司から頼まれていた書類をコンピュータで作りながら部下の相談に耳を傾け、さらに苦情の電話に対応する。その合間に日常的に自分のすべき仕事を処理する。これが退職前の生活でした。それは一言でいえば、「忙しすぎる」ということに尽きます。

かつては、職場から離れれば休日を楽しむことができました。携帯電話やメールが日常的な通信手段となった現代では、コンピュータが仕事の道具となり、相手はこちらの都合など全く考えず、自分の仕事を片付けようとしています。出勤すればメールの山ができています。その処理に朝から追われることになる

のです。休日でも、二十四時間仕事につき合うことになりました。どこにいても、そこが職場になつてしまふ毎日でした。自分がどこにいるのか、今日は休日なのか、境目がはつきりしません。このような生活の中では、忙しさに追われ、仕事をただ処理するだけで、相手の思いや過剰を頭から否定したりがみあつたりすることになりがちでした。一步譲つて、相手の気持ちを思いやったり、相手の立場で物事を考えたりすることの大切さを、今頃になってしみじみと感じます。

「第二の人生」スローライフ」というイメージがあります。スローライフというと、田舎で自給自足の生活を行うこと、あるいは自然の中でのんびりする。などをイメージしがちですが、退職前には不可能だった「日々の生活の中で許し合うこと」こそ、スローライフかもしれないと考えるようになりました。それは、私たち自身が変わらないと手に入らないものです。今日から、こんな生活を手に入れる

### ゆつくりと 充実した時間が



矢木東  
高木 みゆき

四十二年間の勤務を終えて、これからのライフスタイルをどうしていこうかと自問自答した三ヵ月から、早いもので二年が過ぎようとしています。現在はあの頃の不安は全くなく、毎日ゆつくりと充実した時間が流れています。

と言うのも、私は家と会社の往復が長かったため、社会参加が少なくどうしたらいいか考えていた所に、友人からの誘いでシニア大学のことを知りました。地区を越えた友達作りもでき、知識や教養も身につくのではないかと思います。参加を決めました。



入りましたら年の差はあるものの、皆さんの元気で生き生きとした姿に圧倒され、その中自分もいることに喜びを感じました。月二回ですが、多くの人たちとの会話の中から、地域の知識を得たり講義を聞いたり楽しい時間を送っています。また文化センターを中心に活動する編み物サークルのトントングラブに参加させていただき、松沢先生の指導を受け、自分が編みたい物が編める喜びも実感し、教室に行けるのを楽しみにしています。元職場の仲間たちと諏訪湖ウォーキングをしたり温泉に行ったりと、天気を気にしながらの行動にもなれてきました。「家の内から外に足を向ける行動が、勇気と自信をもたらす力になる。」そんな心を常に持つて、これからの第二の人生を笑顔で一日でも長く楽しく送っていかれたらと思います。